

## 日陶連 技能評価試験 ローマ字表記法

あ・ア	い・イ	う・ウ	え・エ	お・オ
a	i	u	e	o
か・カ	き・キ	く・ク	け・ケ	こ・コ
ka	ki	ku	ke	ko
さ・サ	し・シ	す・ス	せ・セ	そ・ソ
sa	※1 shi	su	se	so
た・タ	ち・チ	つ・ツ	て・テ	と・ト
ta	ti	tu	te	to
な・ナ	に・ニ	ぬ・ヌ	ね・ネ	の・ノ
na	ni	nu	ne	no
は・ハ	ひ・ヒ	ふ・フ	へ・ヘ	ほ・ホ
※2 ha	hi	hu	※2 he	ho
ま・マ	み・ミ	む・ム	め・メ	も・モ
ma	mi	mu	me	mo
や・ヤ		ゆ・ユ		よ・ヨ
ya		yu		yo
ら・ラ	り・リ	る・ル	れ・レ	ろ・ロ
ra	ri	ru	re	ro
わ・ワ		を・ヲ		ん・ン
wa		※3 o		no

が・ガ	ぎ・ギ	ぐ・グ	げ・ゲ	ご・ゴ
ga	gi	gu	ge	go
ざ・ザ	じ・ジ	ず・ズ	ぜ・ゼ	ぞ・ゾ
za	zi	zu	ze	zo
だ・ダ	ぢ・ヂ	づ・ヅ	で・デ	ど・ド
da	zi	zu	de	do
ば・バ	び・ビ	ぶ・ブ	べ・ベ	ぼ・ボ
ba	bi	bu	be	bo
ぱ・パ	ぴ・ピ	ぷ・プ	ぺ・ペ	ぽ・ポ
pa	pi	pu	pe	po
っ・ツ				
※4				

\* 国際規格 (ISO3602) に準拠する

※1 「し」の表記は本来国際規格では「si」であるが、多数いる中国人研修生の母語との混乱を避ける為に「shi」と表記する。

(中国語で「si」は、日本語の「す」に近い音となる)

※2 助詞「は」は、「wa」、助詞「へ」は、「e」と表記する

※3 「を」の表記は、国際規格に準拠し「o」と表記する

※4 促音の「っ」は、子音を重ねて表記する。

きや・キヤ		きゆ・キュ		きよ・キヨ
<b>kya</b>		<b>kyu</b>		<b>kyo</b>
しゃ・シヤ		しゆ・シュ		しよ・シヨ
<b>sya</b>		<b>syu</b>		<b>syo</b>
ちや・チャ		ちゆ・チュ		ちよ・チヨ
<b>tya</b>		<b>tyu</b>		<b>tyo</b>
にや・ニヤ		にゆ・ニュ		によ・ニヨ
<b>nya</b>		<b>nyu</b>		<b>nyo</b>
ひや・ヒヤ		ひゆ・ヒユ		ひよ・ヒヨ
<b>hya</b>		<b>hyu</b>		<b>hyo</b>
みや・ミヤ		みゆ・ミュ		みよ・ミヨ
<b>mya</b>		<b>myu</b>		<b>myo</b>
りや・リヤ		りゆ・リュ		りよ・リヨ
<b>rya</b>		<b>ryu</b>		<b>ryo</b>

ぎや・ギヤ		ぎゆ・ギユ		ぎよ・ギヨ
<b>gya</b>		<b>gyu</b>		<b>gyo</b>
じゃ・ジャ		じゆ・ジュ		じよ・ジヨ
<b>zya</b>		<b>zyu</b>		<b>zyo</b>
ぢや・ヂヤ		ぢゆ・ヂユ		ぢよ・ヂヨ
<b>zya</b>		<b>zyu</b>		<b>zyo</b>
びや・ビヤ		びゆ・ビユ		びよ・ビヨ
<b>bya</b>		<b>byu</b>		<b>byo</b>
ぴや・ピヤ		ぴゆ・ピユ		ぴよ・ピヨ
<b>pya</b>		<b>pyu</b>		<b>pyo</b>

\* 国際規格 (ISO3602) に準拠する

## 特記事項

- 国際規格では、長音は母音の上の曲折アクセント記号「<sup>ˆ</sup>」にて表記されるが、日陶連では、問題文にひらがなと日本語文とが併記されることを勘案し長音記号は使わずに、一音一音ローマ字で表記する方法を使用する。(例: 大きい→「**ôkî**」【国際基準】「**ookii**」【日陶連表記法】)  
ただしカタカナ語などで、長音がある場合は、カタカナ表記同様長音記号「ー」を使う。(例: ワーク→「**wa-ku**」【日陶連表記法】)
- 音節の終わりに「n」が来るときは、混乱を避けるため「n」の後に、アポストロフィーを入れ区切る。(国際基準と同様処置)  
(例: 金融→「**kin'yu**」「**kinyu**」と記載すると「記入」とも読めるため)